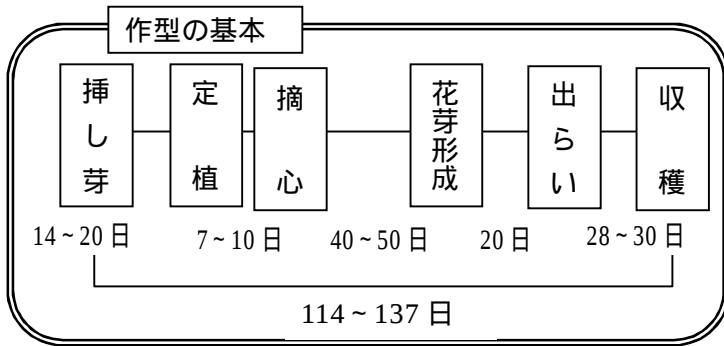


小菊栽培暦(旧盆・彼岸出し)

月 旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
促成栽培	保温 ハウス内へ 株廃棄 追肥・土寄せ(親株とする) 追肥・土寄せ(親株とする)											



1 親株の管理

親株は無加温ハウスで管理する。

10 月中に冬至芽を伏せ込む(5×7~10cm)。冬至芽はできるだけ葉が展開していないものを使用する。

移植が遅くなるようなら株ごと移植する(10×10cm)。活着まで保温する。

1 月いっぱいには十分に寒さにあてる。

2 月に入ったら保温する。しばらくすると芯が伸びてくるので、採穂の 1 ヶ月前に摘心する。それまでに伸びすぎようなら 2 ~ 3 回摘心を繰り返す。



2 挿し芽

3 月 25 日頃になれば無加温で挿し芽可能。

早朝を避けて採穂する。

下葉を落としてまとめて水上げしておく。

発根剤をつける。

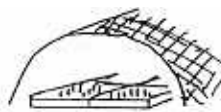
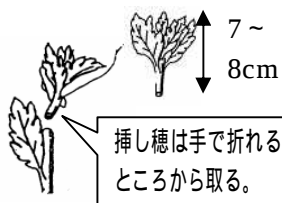
葉が触れ合う程度に、深さ 1~2cm 差し込む。

(セルトレイなら 128 穴)

黒寒冷しゃ等で遮光し、ハウス内で管理する。しおれたら葉水をかける。

早ければ 10 日程度で発根してくるので(温度によって違う)しおれ具合を見ながら寒冷しゃをはずす。

根が 1~2cm 程度伸びたら定植できる。



3 定植準備

目標 pH: 5.5 ~ 6.5

施肥量: 三要素とも基肥 10~15kg/10a

施肥例(10a あたり)

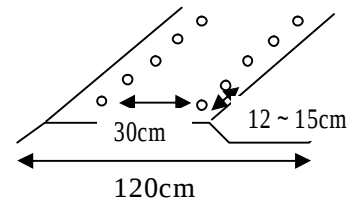
	肥料名	現物量
基肥	堆肥	1~2 t
	苦土石灰	100kg
	苦土重焼燐	40kg
	有機&エイト	150kg
追肥	有機&エイト	50~100kg

栽植密度

・うね幅 120cm 株間 20cm

条間 30cm 2 条植え

・排水不良地ではうね立てする。



3 定植後の管理

摘心: 定植 7~10 日後、活着を確認したら浅く芯を止める。

整枝等: 摘心 20 日後頃、側枝が 10cm 程度伸びたら 1 株 3 本を残して他の側枝と親株の葉をかき取る。

追肥: 整枝後追肥して土寄せする。



4 収穫後の管理

冬至芽の発生を促すため、追肥(N 成分で 4kg 程度)して、土寄せする。

5 植調剤の使い方

ジベレリン処理(草丈伸長)

・摘心 10 日後とその 10 日後、50ppm を 10a あたり 100ℓ 散布する。

・ジベレリン散布後は茎が細くなりやすいので肥培管理に注意し、かけすぎないようにする。

エスレル 10 処理(開花調節)

・摘心後すぐとその 2 週間後に 500 倍で 10a あたり 100ℓ 散布する。

・1 回散布で 7 日、2 回散布で 10 日程度開花が遅れるが、品種間差が大きい。